

アジア健康科学 フロンティアセンターとは

アジア健康科学フロンティアセンターは、アジア諸国の地域特性を考慮し、感染症対策から、母子保健、生活習慣病、高齢者対策までを包括し、個人のライフステージに合わせた健康上の問題を解決することに目標をおいている。健康科学の観点から文理融合・地域や海外との連携を手段とし、人の健康を支援するために2016年3月に設置された。



アジアの健康を拓く アジア健康科学フロンティアセンター



神戸大学

〒654-0142
兵庫県神戸市須磨区友が丘7-10-2
神戸大学大学院保健学研究科内
078-792-2555

<http://www.ams.kobe-u.ac.jp/>

アジア健康科学
フロンティアセンター

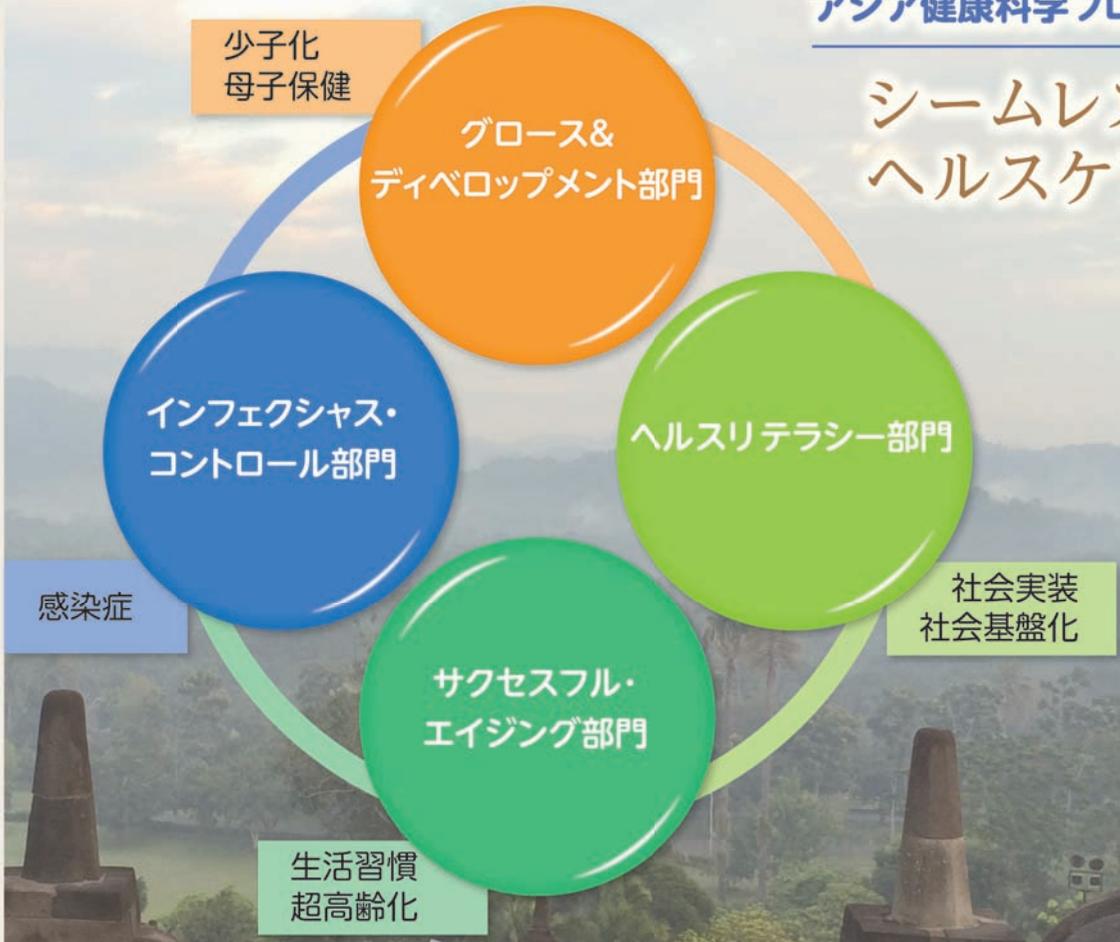
FCAHS

Frontier Center for Asian Health Sciences



神戸大学大学院保健学研究科

シームレスな ヘルスケアの提供



グロース&ディベロップメント部門

安全な妊娠・分娩と子どもの健やかな成長は世界中の人々の共通の願いである。日本での経験をアジア各国の歴史・文化背景、経済状況に応じてカスタマイズし、快適な妊娠・分娩管理システム、胎児期から継続した子育て支援システムを開発する。

ヘルスリテラシー部門

地域のヘルスリテラシー向上に関連する因子を多様な視点から解析し、医療保険システム、女性の地位向上やリプロダクティブヘルスおよびリプロダクティブライツなど、社会・医療制度面での改善を提言する。さらに、新規性に富む健康デバイスや情報管理システムの開発などの研究・人材育成を行う。

インフェクシャス・コントロール部門

国境を越えて瞬く間に広がる感染症の脅威に対して早急な対策が必要となる。感染症の国際共同研究を実施し、次世代の感染症対策を担う若手人材育成に努め、日本国民と世界の人々の安全と安心を守るための活動を行う。

サクセスフル・エイジング部門

超高齢社会の本邦では認知症、サルコペニア、フレイルが喫緊の課題である。本部門では健康寿命延伸のため高齢者の諸課題への対策やそれを担う人材育成に努め、今後アジア諸国に到来する超高齢社会への貢献を目指す。

事業と展望

アジア健康科学フロンティアセンターには、4つの部門を設置し、学内文理融合のみならず、学外組織やASEAN海外大学と、シームレス・ヘルスケア双方向型コンソーシアムを形成し、日本及びアジア諸国へ還元する目的で設置された。具体的には、神戸発祥の福祉医療システムを輸出し、アジア諸国のモデル地区において健康寿命延伸を行うものである。

日本・インドネシア・タイ・フィリピン・ベトナム・台湾
多様化するアジア諸国の 保健衛生課題に貢献する